

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校
2019年度 第1回学校関係者評価委員会

日 時 2019年4月19日 16:30～17:30

会 場 横浜リハビリテーション専門学校 非常勤講師室

出席者 東戸塚記念病院関係者様、西横浜国際病院関係者様、あんしんケアマネジメント関係者様、学
校長、副校長、次長、理学療法学科長、作業療法学科長、ほか教職員6名

内 容

I. 学校長挨拶

本日はお忙しい中、本校の学校関係者評価委員会にお集まりいただきありがとうございます。国家試験の合格発表があり、数名の不合格者を出す結果となりました。4月より新入生を迎え、新たな年度がスタートしています。今後も学生が国家試験に合格できる能力、臨床基礎能力を養える学校にするために、臨床現場の先生方からの貴重な意見を反映させ、学生教育に取り組んでまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

II. 2018年度総括および2019年度業務計画（全て資料に基づく報告と説明）

【2018年度 総括】

資料1に基づき、林副校長より、2018年度総括について報告された。

1-1. 2018年度総括データ

- ・ 国家試験合格率はPT学科94.4%、OT学科69.7%である。理学療法学科は全国平均を大幅に上回っているが、目標である100%合格は達成できなかった。作業療法学科は全国平均を下回る結果となった。
- ・ 退学率の2018年度目標を4%以下に設定した。結果、理学療法学科は4.3%、作業療法学科は3.9%となった。今年度も退学率ゼロを目標に学習指導、心理的サポートを継続的に実施していきたい。
- ・ 就職内定率については、年内目標60%は達成できていたが、年度内目標100%には至らなかった。
- ・ 地域住民向けイベント回数については、2018年度目標を8回に設定した。結果、15回実施した。大幅にイベント回数の増加ができた。

1-2. 2018年度重点項目と達成状況

- ・ 2018年度の重点項目に関する行動目標については、国家試験合格率向上の課題を除き、概ね達成できた。

【2019年度 業務計画】

資料1に基づき、林副校長より、2019年度業務計画について報告された。

重点項目

- ・ 重点課題は理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改定に伴うカリキュラム完成、国家試験合格率向上、入学者の確保とレベル向上である。

- ・ 理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改定に伴うカリキュラム完成の方策は、養成校新指定規則への対応、他校との差別化、臨床実習施設への対応説明である。
- ・ 国家試験合格率向上の方策は、国家試験結果の振り返り、卒業試験の振り返り、指導技法の開発である。
- ・ 入学者の確保とレベル向上の方策は、上位レベルの受験誘導、入学試験合格基準の検討である。

Ⅲ. 自己評価表（全て資料 2 に基づき報告）

資料 2 に基づき、各担当より 2018 年度の達成状況と 2019 年度に取り組むべき課題等について報告と説明があった。

1. 教育目標・理念（林副校長）

- ・ カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。
- ・ 本年度は、PT・OT 養成施設指定規則の改訂が予定されており、改訂に応じて教育目標を変更する予定である。

2. 学校運営（林副校長）

- ・ 年度ごとに各業務担当（図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD）を決定し、遂行している。
- ・ 学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。

3. 教育活動

【シラバス・カリキュラム（水島）】

- ・ 開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。
- ・ 学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。
- ・ 入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。
- ・ 新設された項目、他校にはない本校オリジナル科目を加えた特色のある新カリキュラムを作成する。

【教育力向上（岡村）】

- ・ 授業アンケートは適正に実施され、回答率は前期 94.5%、後期 92.2%であった。また、各担当から結果のフィードバックも行われた。
- ・ シラバス改定についてアンケートを行った結果、シラバスを見ている学生は 6 割を超えていたが、内容については十分活用されていない現状が明らかとなった。
- ・ 教員間の授業参観を企画、実施し、フィードバックを行った。授業参観の評判は概ね良好で、有益であった。
- ・ 授業アンケートの回答率にクラス間差があるため、できるだけ HR 時間内に実施し、学生の意見を吸い上げる方法として活用する。
- ・ シラバスは担当教員が確認することで、科目間の記載のバラツキを減らし、公開に向け準備する。

【臨床実習（瀬戸山）】

- ・ 実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は概ね滞りなく実施した。
- ・ 回答結果に対する公文書の送付についてはトリプルチェックを行い、概ね滞りなく実施した。

- ・ 指導者会議運営については、滞りなく実施できたが、指導者会議参加率が3年次指導者会議において昨年度に比較して減少している。4年次指導者会議においては、昨年度より参加率が向上している。
- ・ 実習地確保関連、厚労省への施設登録関連について、タイムスケジュールを確認し、業務のめれがないように留意する。
- ・ 外部に発送する文書・提出する文書については、トリプルチェックを継続していく。

【情報公開（水島）】

- ・ カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。
- ・ 「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。
- ・ 授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。
- ・ シラバス公開と併せて、授業アンケート結果及び対応などの公開を検討する。

4. 教育成果

【資格・卒業研究（岡村）】

- ・ 4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。
- ・ 1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習（ボランティア）をとりまとめた。
- ・ 研究手順や論文作成に関して、詳細かつ具体的な指導要綱の作成し実施した。

【国家試験・卒業試験（島田）】

- ・ 試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、作成上、不適正問題がないように複数の教員で問題を確認する体制で行なった。
- ・ 第54回国家試験結果は、PT：93.4%（新卒：94.4%、既卒：80.0%）、OT：65.0%（新卒69.7% 既卒42.9%）であり、全国平均PT：85.8%、OT：71.3%で、OT学科が全国の合格率を下回った。
- ・ 今年度も引き続き業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施し、無事終了できた。分野別の正答率（平均点を含め）を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。
- ・ 実力試験では昨年度の卒業試験を取り入れ、全ての学生に卒業試験の過去問題が手に渡るようにした。過去問題を含め、卒業試験においても解説を公開して復習する機会を与えた。
- ・ 国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される対策を検討していく。
- ・ 国試対策を4年生にのみ実施するのではなく、他の学年からも実施していく。
- ・ 卒業試験問題作成時の依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討は、継続して行っていく。

【臨床実習（中村・水島）】

- ・ 理学療法学科では協会が作成する「臨床実習の手引き」改訂版を基に、本校の実習の手引およびチェックリストを作成する。
- ・ 作業療法学科では、今年度は生活行為向上マネジメント（MTDLP）推進協力校A校その基準を満たすように、30%以上の実習施設でMTDLPを活用できるように臨床実習指導者に働きかける。OT協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版を基に、新カリキュラムにも対応（診療参加型実習）できる実習の手引きの見直しを行う。
- ・ 実習終了後、学内のセミナー（症例報告会）にて、実習における経験を共有した。
- ・ 実習で明らかになった課題に対して、個々の学生が振り返りを行い、必要に応じて教員が指導・助言を行った。

【留年・退学者防止】

理学療法学科（中村）

- ・ 1年生（21期生）の再試の平均数は1.08と昨年度（20期生）0.94とほぼ同様であった。再試験不合格者に対する再評価の制度を改良した初年あったが、結果としては昨年度とほぼ同様となった。
- ・ 2年生（20期生）の再試の平均数は1.63と昨年度（19期生）1.12に比べ増加したが、留年者数は2年生（20期生）2名と昨年度（19期生）4名に対して半減出来た。
- ・ 3年生（19期生）の再試数は0.54と昨年度（18期生）の0.59とほぼ同数であった。退学者1は長期休学からの進路変更であり、学力に起因するものではなかった。

作業療法学科（水島）

- ・ 前年度からの総合点による偏差値比較では、1年平均40.0（比較なし）、2年37.0（留年者2名除く前年度平均36.0で+1.0）、3年37.6（留年者1名除く前年度平均37.8で-0.2）で、2年においてプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年1名、2年2名、3年2名であった。
- ・ 後期での総合点による偏差値比較では、1年5名平均38.6（前期平均33.6で+5.0）、2年8名（含3名留年生除く）平均38.8（前期平均36.2で+2.6）で、1・2年においてプラスの効果があった。個別には、強化組対象で後期偏差値が前期偏差値を上回ったものがほとんどであったが、1年1名（退学）、2年2名（進級）が低下し、2年次偏差値上昇したものの再評価で留年になった1名の要因を分析し次年度につなげていく必要がある。

5. 学生支援

【社会性（岡村）】

- ・ 年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。
- ・ 障害者スポーツ大会サポート実習（ボランティア）では、高い評価を受け、関連した大会においてもボランティアを要請された。
- ・ 1年次の見学実習においても、チェックリストを使用し、結果を学生の個別支援に活かした。

【行事（机）】

- ・ 学生がより主体・主導的に動けるよう支援し、準備から当日まで滞りなく実施できた。また、地域作業所の出店や「つなぐカフェ」の実施をし、地域の皆さんにもご参加頂けた。
- ・ 食販では教職員で衛生面のチェックリストを参考にして巡回を行った。その結果、リアルタイムに衛生指導を実施することができた。
- ・ 最終日の後夜祭終了後、各教室を巡回した際、ゴミが残留している教室が認められた。また後夜祭前に下校している学生が多く、片付け作業で学祭委員に負担がかかった。

【個別指導（中村）】

- ・ 定期的な面談に加え、必要に応じ随時面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてはスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。
- ・ 週1回学科会議および問題発生時適宜学生に関する情報交換を行っている。

【防犯、就職支援、災害対策、経済援助（宮野）】

- ・ 年内内定率60%、年度内内定率100%の達成に向け、教員と就職指導担当との連携をより高め、国

試対策の進捗が順調な学生から早期内定を促していく。

- ・ 2019年度の合同就職説明会はこれまでの振り返りを元に実施時期、方法等改めて検討する。

6. 教育環境

【教室（宮野）】

- ・ 地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。
- ・ 体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム（コンサートホール）所有。
- ・ 全学生ノート PC（ソフト）貸与し、導入時に最新の環境を提供している。
- ・ スマートフォンを利用した国家試験対策教材を使用。
- ・ 新規解剖生理学デジタル教材として Visible Body（3D 人体解剖学習リソース）を導入。

【図書・設備・備品（杉山）】

- ・ 図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。
- ・ 教職員、学生より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加発注を実施した。
- ・ 図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。蔵書を 22 の分類に分け、分野別に在庫確認を実施した。2019年3月現在、3,793冊の総蔵書数となっている。
- ・ 「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした際、各実習室の機器、備品の整備を実施した。

7. 学生募集（宮野）

- ・ 定員の充足はもちろんのこと、定員超過にも十分注意する。
- ・ 昨年度の振り返りを基に募集計画の変更について検討する。

8. 社会貢献・地域貢献（宮野）

- ・ 高校生向け講座：「仕事のまなび場」（夏休み2講座）、小中学生向け講座：「小中学生のためのチャレンジスクール」を実施した。
- ・ 職能団体の技能研修会等開催のため、実習教室が活用された。
- ・ 高校等からの依頼による出張授業に参加した。

9. 法令遵守（林副校長）

- ・ 自己評価は、学校運営の一部（授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等）となっていた。平成 24 年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。
- ・ 2019年度は、PT 学科で 3 人の定員超過、OT 学科で 1 人の定員不足であり新学年は 122 名でスタートした。
- ・ 定員の適正化を図る。

IV. 質問・意見

藤井先生：

新入生に国語テストを導入する理由はなにか。

中村学科長：

国語力低下により教科書が読めない、国家試験の問題文を理解できない学生が増えている。1 年生で国語力を把握することで早期からの学生指導に役立てたい。

水島学科長：

今年度は5月に基礎学力テストとして国語、数学のテストを行う予定である。

須藤先生：

授業に参加した際、入学までに学んでいた知識が不足している学生が多い印象を受ける。本校では入学前にプレ授業を行っているが、その対象者と実施頻度は。

宮野：

基本的に全員参加である。月1回のペースで開催している。

V. 次回の会議について

次回の会議開催についてですが、開催時期を考慮した結果、2019年11月8日（金）に開催する方向で調整させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

以上

作成：杉山